

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	19H05663	研究期間	令和元(2019)年度 ～令和5(2023)年度
研究課題名	信頼性向上を持続するeテスト ング・プラットフォームの開発	研究代表者 (所属・職) (令和3年3月現在)	植野 真臣 (電気通信大学・大学院情報理工 学研究科・教授)

【令和3(2021)年度 中間評価結果】

評価	評価基準	
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(研究の概要)		
<p>本研究は、eテストング及びパフォーマンステストの運用上の問題点である、eテストングの経年的な測定誤差の増加、パフォーマンステストにおける評価者特性における測定誤差を抑制するアルゴリズムや手法を考案し、安定的な運用が可能になるプラットフォームを開発することを目標としている。</p>		
(意見等)		
<p>研究計画調書等で挙げられた個々のテーマによって進展の差が見られるものの、順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる</p> <p>「1. 等質テスト自動生成システム」では、実際の試験の要求仕様をどの程度満たしているかが明確でなく、今後明らかにすることが求められるものの、新たな手法により従来手法の2倍以上のパフォーマンスを得るなど有用な成果を上げている。</p> <p>「2. 高精度を維持するためのアイテムバンク・マネジメント手法の開発」では、深層学習による項目反応予測モデルの構築により、現時点では検出手法の提案までには至っていないものの、目的を達成するための道筋ができつつある。</p> <p>「3. 項目露出を制御する等質適応型テスト」及び「4. パフォーマンステストにおける信頼性向上手法の開発」では、小論文自動採点技術では、精度や頑健性を向上させる新たな技術を複数開発するなど優れた成果を上げ、国際会議で論文発表を行っている。</p> <p>「5. 6. 7. 実証実験とガイドラインの開発」は他の項目による要素技術研究成果の活用が期待される。今後は実証実験とガイドラインの開発においても成果を期待する。</p>		